

Vivienne's diary 2014 年 12 月～2015 年 1 月

12/1-1/31 : バレンタインデーです。私は 1 日休みを取っています。今はもう 2 月の中旬ですが、まだ 12 月から 1 月末までの日記を書いています。アンドレアスと私は 3 月 7 日にパリで行なわれるゴールド・レーベル・コレクションの仕上げに追われています。その間の 2 月 22 日にロンドンでレッド・レーベルのショーがあります。マクベスのことについてはもう書いたのですが、それ以外は、毎朝仕事へ行く前に少しだけ日記を走り書きしています。

アンドレアスと私は 11 月 29 日の土曜日に、マクベスの千秋楽を観に行きました。それは私の人生で最も重要な出来事の一つとなりました。そのことについてはもう書きました。



皆さんもご存知のように、私たちクライメイト・レヴオリューションは、私の息子、ジョーと共に英国のフラッキングに反対するキャンペーンに真剣に取り組んできました。私自身、地球が形作った生命を、絶滅と破滅から守るためには、これが最も決定的な戦いであると考えています。私たちはこの戦いに勝たなければなりません。パワフルな 1% だけ(1%の富裕層という意味)が動かす車輪に輻(や)を入れ、マシンを休ませるのです。彼らのパワーは地球をコントロールします。しかし私たちは、私たちのホームであるここから始めなければなりません。

このような理由が原因で、私たちは緑の党を支援することにしました。私自身はクライメイト・レヴオリューションと、ジョーはフラッキング反対チ

ームと協力して。ジョーはヒューマネイドというチャリティ団体を持っています。緑の党はフラッキングや緊縮財政に反対し、地域社会と人権に賛同しています。他の政党は、フラッキングと緊縮財政に賛同し、地域社会や人権には反対しているのです。現状、それらの政党には 1 ミリの違いもありません。私はそのような政党を「ブロック」と呼んでいます。ラジオ 4 の番組エニー・クエスチョンズで、様々な政党の政治家達が討論をするのを聴きました。フラッキングについては、どの政治家も真っ赤な嘘をついていました。公共医療については彼らの答えは完全に混乱に達していました。なぜならば現状の弱肉強食の資本主義のシステムが引き起こした問題から、それに救いの手を差し伸べること自体が難しいからです。—そしてラジオに出演していたどの政治家達もこのシステムを信じているのです。チャンスがないのよ！

そういうことで、今、クライメイト・レヴォリューションは緑の党を支援しています。数回ミーティングも行ないました。ファッションショーの後、私は毎週大学を訪れて、若者達にどうすれば「しっかり生きられるのか」トークをしたいと思っています。私たち自身の生活と、未来の人達の生活を守るため、同様にグリーン経済に変えることによって私たちの生活がどのように潤うのかも。緑の党がこの部分の討議には協力してくれるでしょう。

ここ 3 ヶ月間で起きた重要なことだけをいくつか拾って書いていきますね。

12/3 (水) : 私の会社から何人かがトゥウィッケナムのフィルムスタジオへ行きました。ヴァネッサ・レッドグレイヴと彼女の息子のカルロ・ネロに招待されたからです。カルロは 2 本の 30 分映画の共同制作者です。ゴスニア・ライジングは屈折した心を持つボスによって賃金が支払われていない洗剤製造工場の労働者達について。これは国に十分な仕事がない故に、国中を貧困の波が走っていることを表しています。そこにいる人達は自暴自棄の最後の段階にいるのです。生きる手段も、お互いに助ける、または食事を与える手段もないのです。彼らは抗議しています。

キリング・フィールドは、古代森林地でハーン・ベイにある 40 エーカーの広さのパーク、ワイルドウッドについてです。オオカミ、牛、鹿、フクロウ、キツネ、リス、イノシシ、オオヤマネコ、野生の馬、アナグマ、ビーバーを見ることができます！（アリス・デラルと一緒にいきたいわ。彼女はそこに住んでいるのよ。）

2 つの映画にはメッセージがあります。世界を保護し、所得税を減らし、その代わりに地税を設けることによって貧困をなくすことが私たちにはできると。（これも緑の党の政策です。）

討論がありました。ワイルドウッドのピーター・スミスは、地税についてこう言っています。

金権主義者達の代わりに自然資源にこの「家賃」というものを社会が課することによって、誰一人としてその乱用から利益を得る事ができないので、我々は、土地

や自然資源がもっと効率的に使われる方法を強いて見る事ができ、よってポジティブなフィードバックを生み出す事になる。

この地価税は、最も貧しい人達の収入を増やすことを可能にし、レント・シーカーや独占主義者達の魔の手から労働者を解放し、真のトリクル・ダウン経済（おこぼれ経済）を作り出すことができるだろう。もっと職があり、家も安く、土地へのアクセスも安いけど、誰もが環境に起こす被害には代償を払い、金権主義者が自然資源から搾取して無理矢理利益を得ることもない、そんな世界を想像してほしい。

12/10-11 : 友人のローナ・タッカーとダブリンへ。彼女が私の活動をフォローして、映画を撮っていることを覚えていますか。フェイスブックの女性大会でインタビューされるため、私はここダブリンにきています。ザ・マーカールという高級ホテルには、クリスマスの飾り付けがされ、たくさんの明かりが灯っています。高いメニューです。前菜のかぼちゃのスープ（絶妙）が 16ポンドです。



ホテルのロビーで。

交換：私のスピーチが、フェイスブック上の広告、私たちのサイトを技術的に助けてくれているヴァネッサに交換されます。私たちは、メインのサイトをフォローしてくれている5万人の人達に、クライメイト・レヴオリューションのサイトも見てもらいたいと思っています。私たちの会社は、**量ではなくて質**のスローガンの元に尽力しているということを知っていますか。メインのサイト上では売らず、サイトを私たちにとって最適な物を皆さんに見て頂くだけの場にしたいと思っています。



会場にいた女性達との会話を楽しみました。ニコルが私にインタビューしました。彼女からは愛の香りが放たれ、輝いていました。

今現在の私のトークは、**弱肉強食の資本主義の終焉**についてです。なぜならば、私がいつも言うように、もし皆さんが、資本主義がどのように機能しているかを知っていれば、そこから全てを理解し、世界で一体何が起きているのか真の意見を自分で作ることができるからです。

それからしっかり生きなさい、文化を通して世界に関わることの重要性についても話をしました。過去にいた人々のことを理解すればするほど、現在生きている世界をよりよく理解する事ができます。「自分が取り入れたものを取り出す」のです。会場にいた人達は、私が語ったアリストテレスや、自身の特別な可能性を満たすことの重要性について聞いて大変嬉しそうでした。アリストテレスの哲学の基本は、勉強の形にあります。どのようにそれは起きたのか、どう機能し、変わったのか。彼はこう言いました。「ドングリはオークになるのが嬉しいのだな。」（正確にこのような言葉を使ったわけではありません）この思考が、彼の考える幸福を定義付けるのです。ドングリはオークになるように計画され、出来るだけオークになるのがドングリの運命なのです。

私たち人間は個々の性格をもって生まれ、その性格によって自分で選択をします。もしこの選択をしないのであれば、私たちは決して幸せにはなれま

せん（消費者として居続けるだけでしょう）。幸福は、世界と関わるため自身の深い関心を追求する時に存在します。現在を知るために私たちは過去を知らなければならないのです。これを人は文化を通して行ないます。あなたが入り入れたものを取り出すのです。読書をして、木の名前を知って、アートギャラリーへ行って。自身が深く興味を持っている事を追求することによって、あなたは**現在の自分自身**であることが幸せだと感じるでしょう。だから私は、芸術愛好家はより良い世界を求める自由戦士だと言っているのです。

ダブリンは素晴らしい町です。建築から多くの歴史が垣間見られますが、18世紀の物が特に有名で、どこでも見られます。世界の港で、その当時はロンドンよりも裕福な町でした。コスモポリタンで、脇道へ行くと冒険しているようです。ロンドンが建物全てを壊し続けるようなことをダブリンではしていませんでした。フェイスブックの建物は近代的な建物が並ぶ通りにありました。運転手のシーマスが町を案内してくれました。彼は学者であり知識人でした。



ダブリンのアイランド国立美術館—ヨハネス・フェルメール—手紙を書く夫人と召使い（フェルメールはわずかしかありません。これが存在するとは知りませんでした。）



ダブリンのアイランド国立美術館—カラヴァッジオ—キリストの捕縛（ハリウッド映画よりもドラマチックです。）

12/13（土）：私たちの会社のクリスマスパーティー。マークス・クラブで。こじんまりしたカクテルパーティーです。DJにはパム・ホッグとボーイ・ジョージが。楽しかったです！

12/15（月）：オックスフォードに、本のサイン会と資本主義の終焉についてトーク。

12/16（火）：パリのお店の進捗状況について建築家と話し合い。

12/18（木）：ダウニング・ストリートに、フラッキング抗議のため。政府のアドバイザーがフラッキングは「新たなアスベスト問題」となり得ることを警告しました。



ジョーと。キャメロン首相に（偽物）のアスベストの箱をプレゼントしに。

12/22（月）：ジュリアン・アサンジを訪問に。彼は政治に関することは何でも知っています。

ジョーの家でクリスマス：アンドレアスも来て、家族全員と友人数名がジョーのコーンウォールの家に集まりました。とても重要だったことは、[クール・アース](#)（クール・アースのサイト用に映像を作らないといけないわね。彼らの仕事は素晴らしい進展を迎えているのよ。）のマシュー・オーウェンがクール・アース同様に熱帯雨林保護の活動をする[インガ・ファウンデーション](#)のマイク・ハンズ（彼の仕事は素晴らしいものよ）に会いに来ました。二人ともコーンウォールに住んでいるので、一緒に何か仕事ができないか全員で話す事になりました。私の息子のベンがクリスマスの出来事を書いてくれました：

朝の一番を外でしていたら、少し離れた庭にジョーが居て、その側に死んだ鹿が横たわっているのが見えました。道路に倒れていた鹿を彼も見つけたばかりで、前の晩に車にひかれたのは明らかでしょう。珍しい物を見たもので、ジョーにその鹿をどうするつもりかと尋ねました。するとジョーは、僕たちのニュープロジェクトになるだろうねと答えました。鹿肉を取るために、僕たちはその鹿を解体することにしました。

既に鹿は死んでいたんで、そうする事が環境的に良いのではないかと思えました。僕の母とフェイ以外のみんなはまだお肉を食べますから。だけど僕

は、その解体作業のことを思うと、吐き気を抑える事ができませんでした。この現代社会では、お肉を食べることは誰でもとても容易にできますが、動物の死やお肉になるまでの準備、そういったものには何の責任もとっていません。だから、僕がしなければいけないのではないかと感じていました。幸運にも、繊細な感覚の僕に代わって、スリランカ人の友人クリシュナが解体作業をすると既に申し出てくれていました。もちろん彼にとっても初めてのことなので、まずゴム手袋、肉切りナイフ、黒のゴミ袋をエプロン代わりに装着し準備を整えました。



床に鹿を置いて解体するのは大変だと気付いたので、鹿の前足を結んで側にあった木に吊るしました。僕の叔父のゴードンとトモカがこの時点でやって来ました。4人で見ながら、ちょっとアドバイスをあげ、クリシュナが鹿の胸の部分にナイフの先を入れました。ナイフにちょっとした抵抗があったかのように、彼は前の方にちょっとだけよろめきました。それからナイフを鹿の胃の方へと下ろしました。次は内蔵を取り出します。内蔵には鹿の最後の食事だったと思われる緑の草が残っていました。それから内蔵を一つずつ切り離していきます。僕の愛犬ジャッキーが、地面に滴り落ちた鹿の血を舐めていることに気が付きました。

ジャッキーの白い顔は鹿の血で赤く染められました。彼女にとっては何の問題もないことです。彼女にそもそも備えられている動物の勘が直ぐさま機能したのでしょうか。僕自身は、切断全てが自分に起きているかのように感じていました。（クリスマス休暇で近所へ来ていた人達が、解体作業をしている時にちょうど車で側を通りましたが、どなたの顔もこの光景にちょっと驚いたように見えました。）

次にすることは4本の足を膝部分まで切る作業です。ちょっと刻んでは膝を前後に折ります。骨が折れるときは嫌な音がし、ようやく足を全て落とす事ができました。さて、今度は脂肪の乗った皮を剥ぐ作業です。これはスライスして肉を取っていくのですが、この時に中国の毛皮貿易のことが頭をよぎりました。動物の皮を剥ぐ時は、まだ生きている段階で剥いだ方が簡単らしく、動物を床に叩き付け、骨を折り、気絶させ、皮を剥いで刻んでいくのです。皮を剥がれた動物はまだ生きていて、他の死んだ状態の、または死ん

で行く動物の山に投げ捨てられ、死ぬ時が来るまで10分そこらその状態であるとのこと。

このことから、人間が行なう酷い拷問、鞭打ちのことも頭をよぎりました。

頭がついた状態で皮を剥がれた後は、(鹿のフードやケープのように見えます)足がついに切り落とされ、ビニールでくるまれ、肉は冷凍庫に保存されました。空っぽの胸部を含む残りの部分は、他の動物が食べるかもしれないから、僕が庭の隅の方へと持って行きました。目を備えた鹿の頭は、積み上げられたその体でっぺんから、僕を穏やかに見ているようでした。

子供の頃、アフリカのカラハリ砂漠のブッシュマンの映画を観たのですが、ブッシュマン達は、獲物を気絶させられるだけの量の水薬を矢の先に含ませて、矢を放ちます。獲物が眠りに落ちると、ブッシュマンは喉元を切り裂く前に、その獲物には申し訳ないことをしたがその体が必要であること、頂く命に対する感謝の念を伝えます。このことを思い出し、僕も鹿に同じことを伝えました。

鹿の解体を一通り経験したわけですが、終えてみると実際のところ吐き気はあまりないように感じました。死んだ状態の体から肉を切ったことが、僕を落ち着かせたようです。しかしまだ、殺す事に対しては確信が持てません。

大晦日：大使館でジュリアンと小さな夕食会を。



2015年1月：クリスマス前に私はクライメイト・レヴォリューションのサイトに13人のヒーローについて投稿しました。それぞれの功績を讃えて、良い事をするために戦っている姿を書いていくつもりです。しかし今のところ、グレン・グリーンウォルドと、エドワード・スノーデン、そしてチャールズ皇太子についてしか書いていません。3月末まで書けないでしょうね。私とアンドレアスは今の今まで今シーズンのファッションショー、そして次のシーズンのコレクションに追われているからです。週末も働いているくらいです。

ヒーローであるグレン・グリーンウォルドは政治の力による法律の差し押さえに異議を唱え続けています。政治家は自分たちを守るためにそれを巧みに操作しているのです。エドワード・スノーデンは内部告発を考えた時にグレン・グリーンウォルドにコンタクトを取りました。そしてグレンは、彼の著書「ノー・プレイス・トゥ・ハイド (暴露：スノーデンが私に託したファイル)」にその時起きた事を書きました。彼はこのように書いています：

In the fall of 2005, without much in the way of grandiose expectations, I decided to create a political blog. I had little idea at the time how much this decision would eventually change my life. My principal motive was that I was becoming increasingly alarmed by **the radical and extremist theories of power the US government had adopted in the wake of 9/11**, and I hoped that writing about such issues might allow me to make a broader impact than I could in my then-career as a constitutional and civil rights lawyer.

I have highlighted red the point so deftly and fearlessly stated by a journalist who is also a lawyer. He completes the point

The subject was a perfect convergence of my passions and my expertise. The government tried to justify the secret NSA program by invoking exactly the kind of **extreme theory of executive power that had motivated me to begin writing: the notion that the threat of terrorism vested the president with virtually unlimited authority to do anything to “keep the nation safe,” including the authority to break the law.**

2005年の秋に、大して大げさな期待もなく、私は政治的なブログを始めようと決めました。その時は、この決意がやがて私の人生を変える事になるなんて考えもしませんでした。主な動機は、私自身が、**アメリカ政府が9.11で取った権力の、過激で極端な持論にだんだん不安になってきたから**でした。そしてこのような問題を取り上げて書く事で、憲法と市民権専門の弁護士としてのキャリアよりも、より大きなインパクトを与える事ができるかもしれないという望みがありました。

弁護士でもあり、恐れを知らず巧みにジャーナリストとしてのキャリアをスタートさせた彼のポイントとなる所を私は赤でマークしました。彼はそのポイントを完全についています。

主題は、私の情熱と専門知識とを完全に収束したものでした。政府は**私に書くことを動機付けた、執行権というまさにそのような極端な持論を発動させることによって、NSAプログラムの機密を正当化しよう**としました。**テロリズムの脅威が、「国家の安全を守る」ために実質大統領に無制限の権限を与えるという概念。それには法を犯す権限も含まれているのです。**



ヒーローの**エドワード・スノーデン**は NSA と監視国家の内部告発をしました。

彼がそれをした（そうしなければならなかったのです）主な理由に、私は大変心を動かされました。1.) 暴露しても人は気にもかけないかもしれないという恐れがあるにも関わらず、アメリカ人の中にも徳があるという望み 2.) 世界と並行するインターネットへの信念、自由の地、または発見であり、旧世界の欺瞞へ異論を唱えるものとなる—それを守りたいという彼の望み。非常にハイレベルなインテリで、完璧な準備と計画の元情報をリークしました。

次回ジュリアン・アサンジに会いに行く時に、彼がどのようにエドワードが捕えられるのを回避する手助けをしたのか聞いてみるつもりです。ジュリアンもまたヒーローなのです。

1/15 (木) —1/20 (火) : ミラノ。 メンズのショーが 18 日の日曜日にあります。ショーの準備と発表と同様に、他のコレクションにも目を通さなければなりません。ショールームは商品の買い付けに来ている人達で溢れかえっていました。商品となるレッド・レーベルコレクションが届きました。ショーは今日から数えて来週末です (2 月 22 日)。かなりたくさん訂正しなければならず、やり直しもあり、大変でした。しかし今はショーを楽しみにしていますし、わくわくしています。(と言っても、まだゴールド・レーベルを終わらせるためにたくさん決めなければならないことが残っています。それからやっとシーズンのコレクションが全て終わり、プレッシャーも軽減するでしょう!)

メンズのコレクションでは、T シャツを含むユニセックスのニットウェアとジャージーに大変満足でした。

T シャツ 1.) アンドレアスが T シャツのデザイン用に風変わりなロゴ、シンボル、冷蔵庫につけるマグネットみたいなグラフィックを集めて重ね合わせました。とても魅力的で面白いような T シャツですが、それを私たちは「意味のない T シャツ」と呼んでいます。

T シャツ 2.) **ドリラーズ・イン・ザ・ミスト**—石油とガスの会社ソコ・インターナショナルが、ゴリラの保留地であるヴィルンガ国立公園に、頽廢の種を蒔く計画をどれだけ立てているのか示した映画です。ゴリラの生命の危機についてだけでなく、ゲリラ軍や反逆者達が保留地にやって来ては、掘削会社への見せしめとして、頽廢の末に作られたお金からいくらかもらうおうと人を殺し、彼らがどれだけ破茶滅茶できるかも見せています。

T シャツ 3.) チェ・ゲバラスタイルのベレーをかぶったチャールズ皇太子の写真。私たちは彼の偉業に焦点を置きました。インタビューを受けた時、

私は、もしも彼が過去 30 年間統治されていれば、気候変動なんて起きなかったでしょうねと答えました。王室を持つという考えに反対の人達もいます。それは、左翼（政治的に右と左に何の違いもない時に、果たして「左」の人達と呼べるのかしら。）の人達が、私が言う所の退廃的なマルクス主義者だからだと思います。例えば、彼らはマルクスが好きではないのに、ブルジョア（有産階級）とプロレタリアート（無産階級、賃金労働者階級）の対立を信じているのですから。次の日記でこの事について書きますね。



バックステージで。チャールズ皇太子を着たモデル達。

1 月 21 日以降：緑の党とまたミーティング（緑の党は王室に反対なのよね。いつかこのことについても話し合わなければ）。

緊急：ストップ・フラッキング。
やることがたくさんだわ。